

## 全てが神様の摂理

藤本優子

私は、人を許せぬ苦しみにより神様と出会ったが、このことはまもなく始まる苦難の前に、神様が私に備えて下さったことであつた。

母は何十年もの間、愛をもつて地域の困っている人々のために尽くす。私には過ぎた母だつた。その母に難病である。しかも、その難病の苦しみよりも両親を苦しめたのは、相変わらず勝手気ままに生きる身近な人であつた。私の見るところ善良な人ほど苦難があり、他者を省みることのない人ほど平凡な日々が許されている。この理不尽で不条理な出来事こそが、私の苦悩であつた。

私は、「人は自分の蒔いたものを刈り取ることになる」ということにも疑いを持つほど苦しみ、心の中で神様のことを「おまえ」呼ばわりしたこともあつた。苦しみの意味が分からなくて「なぜ？」と子供のよう泣いた。私達夫婦の關係も行き詰まり、娘達をも悩ませ、家庭に安らぎはなくなつていった。その間に母は召され、半年後、脑梗塞に倒れた父も危篤状態を繰り返していた。そんな時に、夫の親族からの一方的な暴言である。悔し

さや怒りを通り越して啞然とし、夫にも絶望した。ついに私は自己の一切の力が尽き、もはや逃げ場は神様しかなかった。

しかし、この暴言の大打撃によって、ようやく私の頑な心が砕かれて、霊の目が開かれたのである。あの人がどうのこうのではない。徹底的に神様と自分とのことでしか、神様の真理、愛は分らないことを知った。私はここまで経験しなければ納得できない強情者であり、これらのことは私がどうしても通らなければならぬ狭き門であった。

神様との凄まじい十二年間の格闘であったが、神様は見えざる手で私を握り締め、一つひとつ越えさせてくださったのである。全てが神様の摂理であり、感謝に変えられた。

『わたしはあなた（神）の事を聞いていましたが、今は、わたしの目であなたを拝見いたします』（ヨブ記十二・5）